

個の経験の明晰化の重要性—論理学の観点から

田村高幸 (Takayuki Tamura)

千葉大学

個の経験を明晰化していくとはどのようにしていくことであろうか？具体的にはその状況やその経験を捉えた観点込みで記述していくことになる。このような方法の1つには自己エスノグラフィのように物語による方法がある。自己エスノグラフィによって表現された個の経験は他者がそこから情報をくみ取ること（追体験）を可能にし、所属するコミュニティにおいて、重要な価値を持つものになりうる。

このようなことは数学や論理学においては、顕著である：

個別の研究者による数学的経験や論理的経験を式のシステムの形で表現し、そこを基礎に多くの成果が述べられ、それは個別の結果として重要であるだけでなく、それらがほかの研究者によって捉え直され、さらに多くの成果を生み出し行くというふうに、個の経験の明晰化に基づく個別の成果が、数学や論理学の全体の発展を生み出していると捉えられる。そして、個別の段階での式概念・リアリティも、捉え直しが進むことを通して、どんどん豊かになっていく。このことは、概念・リアリティを固定したものを捉えるのではなく、豊かになっていくものと捉えることが重要なことであることを示しているのではないか。

そこで、今回はこれらのことを数学や論理学の式のシステムを用いて、具体的な形で論じてみる。